

2025

久野営農経済センターだより



【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

病害虫防除

7月下旬～8月中旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤
600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回

○カイガラムシ類・チャノキイロアザミウマ

コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ
収穫前日 3回

○ミカンハダニ・ミカンサビダニ・アザミウマ類

メビウスフロアブル(劇) 3000倍 33ml/水100ℓ
収穫7日前 2回

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤
600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回

○ミカンハダニ
ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ
収穫前日 1回、又はダニゲッターフロアブル
2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ・ヤノネカイガラムシ
カメムシ類

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ
収穫前日 3回

【湘南ゴールド】 *下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ
収穫90日前 4回

○ミカンハダニ
ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回
又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ
ヤノネカイガラムシ
カメムシ類

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

○かいよう病(単用散布) コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ

(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

【中晩柑】 *下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ
収穫90日前 4回

○ミカンハダニ
ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回
又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ
ヤノネカイガラムシ
カメムシ類

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

はるみ・不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすく、水分ストレスにより小玉、高酸果ができやすい。そのため、敷わらやマルチ、ナギナタガヤの草生栽培により梅雨明け後から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぐ。著しく乾燥が続く場合は灌水も検討する。着果量が多いと樹勢の低下や枯死の原因になるので、樹冠上部1/3～1/4は必ず全摘果を行う。また、大玉果生産のため1果当たり100葉を基準に早期摘果を行う。

【レモン】 *下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

病害虫防除

8月下旬～9月上旬

○ミカンハダニ
ミカンサビダニ
チャノホコリダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回
又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回

○かいよう病
黒点病

コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ (薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

毎年黒点病が多い園では、枯れ枝の園外廃棄を徹底し、ストロビードライフフロアブル3,000倍（収穫14日前3回）を散布する。

【う め】

病害虫防除 8月～9月

〇モモヒメヨコバイは、ここ3年で被害が急速に拡大しており、葉に寄生すると吸汁被害を起こし、葉色が徐々に薄くなり、白化して早期落葉を引き起こす。葉の被害面積の割合が50～70%以上だと光合成に影響する。

モモヒメヨコバイを見つけた場合はテッパン液剤2000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 2回を散布する。

〇ケムシ類 ダントツ水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

夏季剪定 8月中旬～9月中旬まで

縮間伐を行い周囲から光が当たるようにし、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで光が入るようにして翌年の花芽の充実を図る。8月中に終わると効果が高い。(小梅や樹勢が弱っている樹は、夏季剪定は控えめに行う。)

【キウイフルーツ】

夏季剪定終了後に発生した夏枝や、剪定した部分から出る新梢が巻きついた部分を取り除く。

結果枝の葉を充実させ、果実へ養分が行きやすくするために、新梢を伸ばさないようにする。

※カメムシ発生時は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 50g/水100ℓを散布(収穫前日 3回)

乾燥防止対策 初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにする(敷わら・灌水)

【か き】*下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

病害虫防除

8月上旬

〇カキノヘタムシガ・カメムシ類 ダントツ水溶剤 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫7日前 3回

コナカイガラムシ類

又はスタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

〇うどんこ病・炭疽病

トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫前日 6回

8月下旬

〇うどんこ病多発園 トリフミン水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回

灌水 肥大促進・充実のため、梅雨明け後に乾燥が続く場合は、1週間に1回程度灌水を行う。

【お 茶】*下線が引いてあるものは重要防除なので、必ず防除を行う。

土づくり 8月中旬までに苦土石灰120kgと有機物を30cmくらいの深さですきこむ。

病害虫防除

8月上旬～中旬

チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ ロディー乳剤(劇) 1,000倍 100ml/水100ℓ

チャノホソガ・チャハマキ・チャノコカクモンハマキ

摘採7日前 1回

〇炭疽病

オンリーワンフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ

摘採7日前 2回

8月中下旬

〇カンザワハダニ

ミルベノック乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ

摘採7日前 1回

整枝 一番茶以降更新作業をしていない園では上旬をめどに整枝を行うが、樹勢が極端に悪い際は整枝をしない。

【水 稲】

水管理(高温障害の対応) 重要

出穂後20日間の平均気温が26～27℃以上の高温で推移すると、高温障害粒(乳白粒・心白粒等)が多発し、品質が低下するため、出穂前15日、出穂後10日間は水を切らさないようにする。

その後は、根の活力維持のため間断かん水に努める。35℃以上の異常高温が予測される場合は、掛け流しかん水を行うことで、圃場の気温が下がり被害の軽減が可能。

病害虫防除 8月上旬～中旬

〇斑点米カメムシ類

・イネカメムシは7月から水田に飛来するので発生を確認する。(日中は株元に隠れるため朝に観察)

・イネカメムシは他のカメムシと異なり、出穂期に不稔の被害を引き起こし、減収・品質低下を招くので

除草・早期の薬剤散布を組み合わせで防除を徹底する。

- ・ 出穂期～穂揃い期 1回目（イネカメムシ発生水田）、出穂期の10日～14日後 2回目（他の斑点米カメムシと同時防除）

※イネカメムシ発生水田では斑点米カメムシ類の防除と併せ8月下旬以降に3回目の防除をすると効果がより高くなる。

〈雑草管理〉

○出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませ、草刈後3週間程度で雑草が結実し始めるので1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りを行う。また、収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行う。

【イネカメムシ】7月下旬～8月上旬 (粒剤・液剤：出穂期) 【斑点米カメムシ】8月上旬～中旬 (粒剤：出穂7日後)(液剤：出穂10日後) 【イネカメムシ】8月中旬～下旬 (粒剤・液剤：出穂10日後) 【斑点米カメムシ】8月下旬～9月上旬 (粒剤：出穂21日後)(液剤：出穂24日後)	斑点米 カメムシ類 イネカメムシ	スタークル粒剤(3kg／10a)	7日	3回
		スタークル豆つぶ(250g／10a)	7日	3回
		エミリアフロアブル1,000倍 (60～150℃／10a)	7日	2回
		キラップフロアブル2,000倍 (60～200℃／10a)	14日	2回

防雀網の設置 開花時に影響が無いように、出穂前に済ませる。

自然対策 豪雨：水口、水尻を閉め過剰な水路からの流入による倒伏を防ぎ、泥水が入った際には、すみやかに新鮮な水と入れ替える。

強風：水口、水尻を閉め深水にして、風による倒伏を防ぐ。

＜注意＞「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布が可能。（前日は24時間前）

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認すること。

▲店舗により農薬の在庫状況は異なるため、購入の際は事前確認することで円滑な購入が可能。▲

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用すること。

水稲用一発肥料のプラスチックは水田から流出しないよう、対策をお願いします。

【対策1】

～浅水代かき～

均平化	入水前に田面はできるだけ均平にする。
畦畔管理	あぜが崩れていないか確認し、排水溝には止水版を設置する。
入水量	大部分の地表が見えるぐらい浅めの入水にする。
自然落水	移植前の落水は行わず自然落水により水位を調整する。

【対策2】

～捕集ネットの使用～ ※強制落水を行う場合の対応策。

- ① 材料を揃える：材料一覧例 玉ねぎネット(網目2ミリ以下)・BBQ用網・クリップ園芸用支柱
- ② 水尻に設置：YouTubeにて対策動画を公開している。



＊被覆肥料は、プラスチック等でコーティングをしているため、肥効の調節が可能。

＊施肥回数減による軽労化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点がある。

一方で肥料成分が溶出した後の被膜殻が河川や海へ流出することが問題になっている。

製造メーカー・全農による共同研究・開発について

- ① 環境にも配慮するため、光や微生物の働きにより土壤中に崩壊・分解しやすくなるように各メーカー工夫を行っているが、分解するまでかなりの時間を必要とする。
- ② より速やかに分解させる技術の確立を目指し、メーカーと協力して研究開発に取り組んでいる。